

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コベルプラス堺東教室			
○保護者評価実施期間	2023年 11月 1日 ～ 2023年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	2023年 11月 1日 ～ 2023年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2023年 12月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用定員が指導訓練室などスペースとの関係で適切である。	集中して療育時間を過ごせるように環境を整えている。	保護者様にもヒアリングを行い、改善点を懸案事項として管理していく。
2	活動プログラムが固定化しないように工夫している	飽きのこない2000種類以上の教材を用意している。	同じ教材でも出し方や取り組み方を工夫することで、より一層、利用者の興味・関心を広げることが出来るようにしていく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催などにより保護者同氏の連携が支援されているか	毎月のペアレントトレーニングや、年に2回の保護者交流会を開催している。	今後も、保護者様にとって素敵な時間を一緒に作っていただけるように、企画をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的な参加。	積極的な参加が出来ていない。	参加を検討していく。
2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	事業所内での定期的な避難訓練は行っているが、全員参加での訓練を行うことが出来ていない。	希望者が参加できるような訓練を今後企画していく。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図る。	積極的な参加が出来ていない。	参加を検討していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		コベルプラス堺東教室										
公表日												
2024年 2月 1日												
利用児童数												
26人												
回収数												
6人												
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6									
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1		1						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4			2						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5	1								
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	1		1						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4	1		1						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4	1		1						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4	1		1						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5		1							
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1	1							
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3		1	2						
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5	1								
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	1								
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	1	1							
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	5		1							
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5		1							
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5		1							
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5		1							
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5		1							

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5		1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2		1	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1		1	4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4	1	1			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4	1	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	4	1	1			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
コベルプラス堺東教室		R6年 2月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	利用者が集中して療育時間を過ごせるようなつくりをしている。	保護者様にもヒアリングを行い、改善点を懸案事項として管理していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	子どもの人数に対して適切な人数を配置できている。	職員の急な休みに対応できず、他教室からヘルプに来ていただく必要があるときがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	訓練室は個室となっており、マジックミラー越しに保護者が見学できる環境。	外から見学をしていると、声が聞き取りにくかったり、集団療育の際に複数の保護者で見えにくいことがあり、改善を模索している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎朝清掃をしており、こまめな消毒も行っている。	引き続き、清潔で心地よい空間を目指していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	個別でも対応できる環境を整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	毎朝の朝礼で引継ぎ、毎週カンファレンスを行っている。	研修を定期的に行うことが出来るようにスケジュールを組んで調整をしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	療育後に、毎回フィードバックを行っている。	保護者のニーズに対応できるテクニックを研修などを通して共有していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	アンケート結果を回覧し、共有を行い会議などでも課題を共有している。	アンケート結果を社内HPにて公表して、共有することで支援の質を向上していけるように意見交換を行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		第三者評価を実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	教室内での研修を定期的に行っている。	障がいに対する理解を深め、より一層の専門的支援が出来るように研修を行っていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	0	6		公表をおこなっていないため、来年度から公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	カンファレンスを行う時間を取り、全職員で共有を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	カンファレンスを行う中で、全体で意見を出し合い、今後の方針を話し合ったり共有を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	個別支援計画の内容を共有して支援を行っている。	個々の課題を理解して、支援方法の案をそれぞれが考えていけるようにしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	法人で作成したアセスメントプログラムを活用している。	指導員が法人独自のアセスメントツールの理解を向上できるように説明をしていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	関係機関との連携を積極的に行い、保護者に説明して支援計画にも取り入れている。	地域支援の部分でのアプローチが出来るように改善していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	月に2回、コミュニティクラスを開き、チームで話し合いながら計画し、ゲームや制作に取り組んでいる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	毎月変わるプログラムで飽きのこない200種類以上の教材を用意している。	同じ教材でも出し方や取り組み方を工夫することで、より一層児の興味・関心を広げることが出来るようにしていく

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	児のレベルに合わせて集団・個別の療育を提供している。	保護者からの要望を考慮し、迅速にご案内が出来るようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	メイン・サブ等の役割分担や確認を毎日行っている。	支援内容の工夫の引き出しを広げることが出来るように精進していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	朝礼を毎朝行い、前日の様子を振り返り、共有している。	抜けの内容に、共有ノートなどを活用していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	朝礼を毎朝行い、前日の様子を振り返り、共有している。	療育に入る前に前回の記録を確認し、前回の療育からの支援の改善につながる療育を行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的なモニタリングを行うことが出来る。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	会議の前にカンファレンスで情報交換を行い、児童発達支援管理責任者が参画している。	指導員も参加できるように、全体のレベルの向上を行っていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	利用者、または利用者家族が利用する関係機関とは連携しながら支援を行っている。	つながりを広げることが出来るように検討していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	関係機関連携を行い、情報共有や相互理解を図っている。	引き続き、情報共有や相互理解を図っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	6	入学前は園との情報共有を行い、園から伝えてもらうことが多い。入学後、学校との連携を行っている。	入学前からの情報共有をおこなっていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	3	3	堺市の放課後連絡会に所属している。	研修の機会を増やしていけるように検討していく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6		地域との交流が出来ないか、検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	困りごとなどは毎療育後のフィードバックの時に共有をしている。	保護者との関係性をより深めて、ニーズを把握できるように尽力していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	月1回、ペアトレを開催しており、保護者様同士の交流の場にもなっている。	引き続き保護者様の相談の場として活用してもらえよう、開催を企画していく。
保護	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		アセスメントを深めて、質を高めていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	支援計画を立てたら、保護者様に同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	困りごとなどは保護者様と療育と一緒に観察しながら聞いたり、毎療育後のフィードバックの時に共有をしている。	悩みや相談に対して、必要な助言を行えるように日々自己研鑽していきます。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	年に2回保護者会を開催して、保護者様同士の情報共有の場になっている。	今後も引き続き年に2回のペースでの開催を企画していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	児童発達支援管理責任者が対応している。	誰でも適切に対応できる体制を作れるようにしていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	月1回、ベルくん通信の発行、SNSの投稿を頻回に行っている。	興味をもってもらえる投稿を作っていけるように考えていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	施錠・シュレッダーをしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	マカトンなどにも対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	関係機関とのやりとりはおこなっている。	今後、地域にも参画していけるように検討していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	マニュアルを作成、内容を全体で共有している。	利用者と一緒に訓練をおこなう機会を増やしていく。
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	マニュアルを作成、内容を全体で共有している。	利用者と一緒に訓練をおこなう機会を増やしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に確認し、変化があれば共有をおこなっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4	契約時にアレルギーの有無を確認して、情報共有をしている。	教材にアレルゲンがはいっていないか確認していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	マニュアルを作成、内容を全体で共有している。また、定期的に研修や訓練をおこなっている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	契約時の書類に記載しており、口頭での説明をおこなっている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	事業所・会社全体で共有を行っている。	改善点を共有し、再発防止していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	虐待防止に関する研修を定期的におこなっている。	研修を通して、今後も知識を深めていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	契約時に説明をして、同意書を頂いている。	